



広安里

発行 釜山日本人学校

釜山広域市水営区民楽洞173-8

TEL 051-753-4166

FAX 051-756-4851

<http://user.chollian.net/~pusjpnsc>

平成
18年度
第3号

「感じたこと」

釜山日本人学校 学校運営委員 井手 久敏

私は今年3月から在釜山日本国総領事館に勤務している井手と申します。

今年度から日本人学校運営委員会の委員をしています。また、領事館では、主に邦人の方の援護・援助などを行うとともに「釜山日本人学校」に関して東京との連絡などを行っています。

私の子供は、現在、高校生（もう1人は日本に住んでいます。）であるため、当学校には在籍しておらず、市内の別の学校に通っています。

当地釜山に来て感じたことは、沖縄と非常に似ているところがあるということでした。仕事の関係で北は北海道から南は沖縄まで勤務してきました。沖縄のこと、韓国のことを詳細に書いた本はたくさんあると思いますが、私が感じたこととして、沖縄で暮らした時は、さして気に留めなかったことが、当地へ来て、ここの人と関わり、そして生活をしていると共通点があると感じたことでした。

まず、大家族制（韓国では生活様式の変遷により都市部では若干薄れてきているようですが、）や目上の人、お年寄りを敬うこと、更に親類縁者のつき合いが生活の中で非常なウエイトを占めていることなどです。特に「ハルモニ、ハラボジ」と「おばあ、おじい」を大切にする場面は電車の中で無条件に席を譲り、譲って貰った先方もそれがごく当然のようにして、見ていて違和感なく座っていたことなどでした。

他にも「モイム（集まり、集会、会合）」、沖縄では「模合（もあい）」と称し、同級生、友達、職場あるいはそれを超えて色々のレベルでのみんなが集まり、早い話、食事会や飲み会をやるというものです。

沖縄では上級生が下級生の面倒を見ながら登下校をする場面や親達が自分の子供はもちろん人の子供にも悪いことをしたら叱り、良いことをしたら褒めてやるなど20年以上前にも日本

にもあったであろう場面をよく目にしました。このようなことは地域の人達が一体となって大事な子供達を育てているように感じました。この良い風潮が韓国釜山の中の日本人コミュニティーである日本人学校に残されているように感じました（前出の沖縄と韓国との共通点の紹介からは少し外れますが・）。

私自身、当地へ来てから卒業式や入学式に出席させて頂きました。特に卒業式では、児童・生徒1人1人が本当に真剣に、一生懸命に自らの言葉で飾り、また表現するなどして、ともすれば形式的になりがちな卒業式がこんなに大変感動するものだったのかと思った次第です。また、つい先日もドッジボール大会に参加した際、上級生が下級生を面倒見る姿、先生と子供達、親御さん達と関わっている姿が非常に新鮮に感じました。

このように素晴らしい面が多々ある反面、日本に帰国してから進学を間近に控えている子供達の親御さんにすると、学習塾などが十分でない外国で学ばせている心配もあるのではないかと思います。ただ、30名強という少人数の学校で様々なことを学んだ児童・生徒は、少なくとも日本で学んでいる児童・生徒よりも勉強以外に遙かに沢山のものを得ることは事実でありましょうし、加えて先生達が児童・生徒に対して沢山の愛情を注がれていると思うのは私一人ではないと思います。

そういった素晴らしいものを持つ釜山日本人学校の32名の児童・生徒、先生達と一緒に関わっていけることは、貴重かつ得難い経験として誇りに思い、これから一生懸命やっていきたいと思っています。